

**わたしのほかに  
神があってはならない**

カトリック教会カテキズムによる

**迷信**

**偶像崇拜**

**占いとまじない**

2110 第一のおきては、ご自身の民に自らを啓示された唯一の主以外の神々を拝むことを禁じるものです。迷信と神への不敬を禁じています。迷信とは、宗教の一種の行き過ぎであり、ゆがみです。神への不敬とは、敬神徳の欠如であり、敬神徳とは反対の悪徳です。

## 迷信

2111 迷信とは、宗教心ならびにその宗教心の実践から逸脱することです。それは真の神にささげる礼拝に及ぶことさえあります。たとえば、ある種の正当であったり必要であったりする信心業に、何か魔術的な効果を帰すような場合です。必要な心構えではなく、祈りのことばや秘跡のしるしなどの単なる外面的な要素に効力があると考えerことは迷信です。

## 偶像崇拜

2112 第一のおきては多神教を否定します。真の神以外の神々を信じないこと、唯一の神以外の神々を拝まないことを人間に要求します。聖書は、「口があっても話せず、目があっても見えない」、「金銀にすぎず、人間の手が造った」偶像を退けるようにたえず促します。これらのむなしい偶像は、「偶像を造り、それにより頼む者は、偶像と同じようになる」(詩編 115,4-5,8)といわれているように、人をむなしい者にします。これに反して、真の神は「生ける神」(ヨシユア 3,10)であり、いのちを与え、歴史に介入されるかたです。

2113 偶像崇拜というのは、異教の誤った信仰に関することがらだけの問題ではありません。それは、どんなときにも信仰に対する誘惑となり続けるものなのです。偶像崇拜とは、神でないものを神とすることです。

それは、人間がある被造物を、たとえば悪霊(悪霊崇拜)、権力、快樂、人種、祖先、国家、金銭などを、神の代わりに尊敬したり崇拝したりするときに必ず生じるものです。イエスは「あなたがたは、神と富とに仕えることはできない」(マタイ 6,24)とっておられます。多くの殉教者は、「獣」を拝まず、拝むふりをすることさえ拒否して殺されました。偶像崇拜とは神が唯一の主であるとは認めないことなので、神との交わりとは相いれないものなのです。

2114 人間生活は、唯一の神を崇拝することによって統一されたものになります。ひとりの主をあがめるというおきては人間を純粋なものにし、果てしない心の乱れから守ってくれます。偶像崇拜は人間の生来の宗教心の倒錯です。偶像崇拜者とは、「人の心に消しがたく刻まれた神の理念を、神ではなく、神以外の何かに当てはめる」人のことです。

## 占いとまじない

2115 神が預言者ないし他の聖人たちに未来のことを啓示されることがあります。しかしキリスト者の正しい態度は、未来に関することを信賴して摂理のみ手にゆだね、この点に関するあらゆる不健全な好奇心を捨てることにあります。無分別は無責任となることがあります。

2116 あらゆる種類の占い、たとえば、サタンや悪霊、あるいは呼び出された死者の霊に未来のことを尋ねたり、その他の誤った方法で未来のことについての「覆いをはがす」ような行為は避けるべきです。星占い、占星術、手相占い、運勢・運命判断、心霊術、霊媒に頼るなどの行為には、時間や歴史、さらには人間をも支配しようとする意志だけではなく、やみの権力を得たいという望みも隠されています。これらは、神のみに払わなければならない賛美や尊敬、愛を伴うおそれなどとは相いれないものです。

2117 まじないや妖術などによって、人はやみの勢力を支配して自分に従わせ、他人に対して利用するための超自然的能力を得ようとしませんが、たとえ健康を回復させるためであっても、そのような行為は敬神徳に反する重大な罪になります。他人を害する意向でこのような行為をしたり悪霊の介入を呼び求めたりする場合は、さらに大きな罪になります。お守りを所持することも、とがめられるべきことです。降霊術にはしばしば、占いかまじないが伴っています。したがって、教会は信者に降霊術にも加わらないように警告します。伝統的医術と称するものの力を借りて悪霊の力を呼び求めたり他人の軽信性を利用したりすることも、正当化することはできません。

\*

📖 「彼の心は灰、その希望は土よりもむなしく、／その命は泥よりも卑しい。なぜなら、自分を造ってくださった方、／活動する魂を吹き込んでくださった方、／生かす霊を注いでくださった方を、／知るに至らなかったからである。かえって人生を遊び事と見なし、／生活を金もうけのできる催し物と考えて、／どんなことから、たとえ悪からでも、／利を得るべきだと言う。自分が罪を犯していることを、／彼は他のだれよりも知っている。土を材料にして、器と偶像を造ったから。」 知 15:10-15

📖 「国々の偶像は金銀にすぎず  
人間の手が造ったもの。  
口があっても話せず  
目があっても見えない。  
耳があっても聞こえず  
鼻があってもかぐことができない。  
手があってもつかめず  
足があっても歩けず  
喉があっても声を出せない。  
偶像を造り、それに依り頼む者は  
皆、偶像と同じようになる。」

詩 115:4-8